

建築基礎構造設計指針(2019年11月刊行) 正誤表

整理番号 8-1 : 2026年2月25日更新 第6刷にて修正予定
 整理番号 7-1から 7-2まで: 2025年5月 1日更新 第5刷にて修正
 整理番号 6-1から 6-2まで: 2024年7月10日更新 第5刷にて修正
 整理番号 5-1 : 2023年8月 7日更新 第4刷にて修正
 整理番号 4-1から 4-4まで: 2021年9月 6日更新 第3刷にて修正
 整理番号 3-1 : 2021年2月24日更新 第3刷にて修正
 整理番号 2-1から 2-8まで: 2021年2月 5日更新 第3刷にて修正
 整理番号 1-1から 1-48まで: 2020年4月 8日更新 第2刷にて修正

整理番号	頁	訂正箇所	誤	正
8-1	126	図5.2.2		
7-1	313	上から6行目	α, b : 定数	α, b : 定数
7-2	313	上から15行目	α, b を用いる	α, b を用いる
6-1	426	式付2.8b	$N_c = 2\sqrt{EIK_c} \quad (\pi^4\sqrt{EI/K_c} < l \leq \pi^4\sqrt{EI/K_c})$	$N_c = 2\sqrt{EIK_c} \quad (\pi^4\sqrt{EI/K_c} < l \leq \pi^4\sqrt{2EI/K_c})$
6-2	126	下から11行目	式5.2.1に	式5.1に
5-1	266	下から8行目	群杭フレームモデル用いて	群杭フレームモデルを用いて
4-1	53	図3.2.3 横軸		
4-2	62	参考文献 3.2.7)	一豊蕨における巨大噴砂孔一	一富蕨における巨大噴砂孔一
4-3	105	7行目	スウェイばねの応答値,	スウェイばねの応答値(根入れ部側面の地盤ばねの寄与が大きい場合はこれを除く),
4-4	445	例図1.1		
3-1	143	10行目	[式5.3.2参照]	[式5.3.4参照]

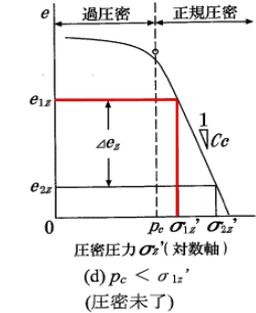
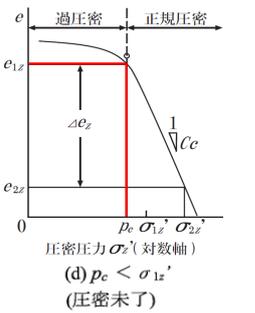
建築基礎構造設計指針(2019年11月刊行) 正誤表

整理番号 8-1 : 2026年2月25日更新 第6刷にて修正予定
 整理番号 7-1から 7-2まで: 2025年5月 1日更新 第5刷にて修正
 整理番号 6-1から 6-2まで: 2024年7月10日更新 第5刷にて修正
 整理番号 5-1 : 2023年8月 7日更新 第4刷にて修正
 整理番号 4-1から 4-4まで: 2021年9月 6日更新 第3刷にて修正
 整理番号 3-1 : 2021年2月24日更新 第3刷にて修正
 整理番号 2-1から 2-8まで: 2021年2月 5日更新 第3刷にて修正
 整理番号 1-1から 1-48まで: 2020年4月 8日更新 第2刷にて修正

整理番号	頁	訂正箇所	誤	正
2-1	30	15-16行目	ここに、 $\phi_d(^{\circ})$:内部摩擦角、 N_1 : N 値を有効上載圧で補正した換算 N 値、 σ_z' (kN/m^2):有効上載圧	ここに、 $\phi_d(^{\circ})$:内部摩擦角、 N_1 : N 値を有効上載圧で補正した換算 N 値、 σ_z' (kN/m^2):有効上載圧 なお、根入れの小さい直接基礎の支持力では、有効上載圧が小さい地表面付近において大きな N_1 値となり支持力を過大評価する可能性がある。畑中らの提案式の基になったデータの範囲は $\sigma_z' \geq 40\text{kN}/\text{m}^2$ であるが、根入れの小さい直接基礎の支持力に対する安全性を考慮し、原則として $\sigma_z' \geq 100\text{kN}/\text{m}^2$ とするのが良い。
2-2	31	8-9行目	H_0 (m):基準深度、 Y_g :地質年代係数(沖積層1.0、洪積層1.3)、St:土質に応じた係数(粘性土1.0、砂質土・砂礫土1.1、礫質土1.4)	H_0 (m):基準深度(1m)、 Y_g :地質年代係数(沖積層1.1、洪積層1.3)、St:土質に応じた係数(粘性土・砂質土1.0、砂礫土1.1、礫質土1.4)
2-3	54	図3.2.4 横軸	(kN/m^2)	(MN/m^2)
2-4	148	5行目	文献2.7.12)~2.7.14)	文献2.7.10)~2.7.12)
2-5	248	6-8行目	R_{TV} (kN/m^2) R_{TR} (kN/m^2) R_{TY} (kN/m^2)	R_{TV} (kN) R_{TR} (kN) R_{TY} (kN)
2-6	259	図6.3.3		
2-7	267	図6.6.9(a)		
2-8	447-448	最下行-2行目	$D_{cy} = 0.05 \times 1.0 + 0.08 \times 1.0 + 0.01 \times 1.0 + 0.02 \times 1.0 + 0.005 \times 1.0$ $= 0.17\text{m}$ $S = 0.17\text{m}$	$D_{cy} = 0.04 \times 1.0 + 0.08 \times 1.0 + 0.01 \times 1.0 + 0.02 \times 1.0 + 0.005 \times 1.0$ $= 0.16\text{m}$ $S = 0.16\text{m}$
1-1	5	用語の定義に、「極限[鉛直]支持力」を追加	接地圧: 上部構造からの荷重が基礎スラブや耐圧版の底面を介して地盤に作用するときの圧力。 負の摩擦力: 周囲の地盤が沈下することにより、杭周面に下向きに作用する摩擦力。	接地圧: 上部構造からの荷重が基礎スラブや耐圧版の底面を介して地盤に作用するときの圧力。 極限[鉛直]支持力: 構造物を支持しうる最大の鉛直方向抵抗抗力。基礎形式に応じて、直接基礎の極限[鉛直]支持力、杭の極限[鉛直]支持力などという。杭の極限[鉛直]支持力を載荷試験より求める場合には、杭先端径の10%の沈下量を生じるとき支持力を指すこともある。 負の摩擦力: 周囲の地盤が沈下することにより、杭周面に下向きに作用する摩擦力。
1-2	34	参考文献 2.7.4)	武山謙三郎	竹山謙三郎
1-3	36	24行目	ソイル柱列山留め壁	ソイルセメント柱列山留め壁
1-4	44	最下行	正規圧密状態の粘性土の場合	正規圧密または圧密未了状態の粘性土の場合

建築基礎構造設計指針(2019年11月刊行) 正誤表

整理番号 8-1 : 2026年2月25日更新 第6刷にて修正予定
 整理番号 7-1から 7-2まで: 2025年5月 1日更新 第5刷にて修正
 整理番号 6-1から 6-2まで: 2024年7月10日更新 第5刷にて修正
 整理番号 5-1 : 2023年8月 7日更新 第4刷にて修正
 整理番号 4-1から 4-4まで: 2021年9月 6日更新 第3刷にて修正
 整理番号 3-1 : 2021年2月24日更新 第3刷にて修正
 整理番号 2-1から 2-8まで: 2021年2月 5日更新 第3刷にて修正
 整理番号 1-1から1-48まで: 2020年4月 8日更新 第2刷にて修正

整理番号	頁	訂正箇所	誤	正																																																																																																										
1-5	45	式3.1.4	$S = \sum \left\{ \frac{C_{ci} H_i}{1 + e_{0i}} \log_{10} \frac{\sigma_{2zi}'}{\sigma_{1zi}'} \right\} \quad (3.1.4)$ ここに、 C_{ci} : i 層の圧縮指数、 σ_{1zi}' (kN/m ²): i 層中心での建設前の鉛直有効応力、 σ_{2zi}' (kN/m ²): i 層中心での建設後の鉛直有効応力	$S = \sum \left\{ \frac{C_{ci} H_i}{1 + e_{0i}} \log_{10} \frac{\sigma_{2zi}'}{p_c} \right\} \quad (3.1.4)$ ここに、 C_{ci} : i 層の圧縮指数、 p_c (kN/m ²):圧密降伏応力、 σ_{2zi}' (kN/m ²): i 層中心での建設後の鉛直有効応力																																																																																																										
1-6	48	図3.1.7(d)	 <p>図3.1.7(d)の圧縮曲線において、横軸が圧密圧力σ_z'(対数軸)であり、縦軸が偏りeである。図は過圧密状態と正規圧密状態を示している。点e_{1z}とe_{2z}は曲線上の偏り値を示し、Δe_zはそれらの差を示している。傾斜は$1/C_c$と示されている。注(d) $p_c < \sigma_{1z}'$ (圧密未了)とある。</p>	 <p>図3.1.7(d)の圧縮曲線において、横軸が圧密圧力σ_z'(対数軸)であり、縦軸が偏りeである。図は過圧密状態と正規圧密状態を示している。点e_{1z}とe_{2z}は曲線上の偏り値を示し、Δe_zはそれらの差を示している。傾斜は$1/C_c$と示されている。注(d) $p_c < \sigma_{1z}'$ (圧密未了)とある。</p>																																																																																																										
1-7	58	図3.2.13	横軸最小値:記述無	横軸最小値:0																																																																																																										
1-8	59	4行目	図3.1.14	図3.2.14																																																																																																										
1-9	93	17行目	Zhang et al.(張ら)	張ら(Zhang et al.)																																																																																																										
1-10	93	図4.3.10	受働土圧に至る相対変位 D_p ($0.1D_p$)	受働土圧に至る相対変位 Δ_p ($0.1\Delta_p$)																																																																																																										
1-11	94	式4.3.20	$K_p = \tan^2 \left(\frac{\pi}{4} + \frac{\phi}{2} \right) \quad (4.3.20)$	$K_p = \tan^2 \left(45^\circ + \frac{\phi}{2} \right) \quad (4.3.20)$																																																																																																										
1-12	94	式4.3.22	$P_p = c(z_b - z_a)B\sqrt{K_p} + \frac{1}{2}\gamma B(z_b^2 - z_a^2)K_p \quad (4.3.22)$	$P_p = 2c(z_b - z_a)B\sqrt{K_p} + \frac{1}{2}\gamma B(z_b^2 - z_a^2)K_p \quad (4.3.22)$																																																																																																										
1-13	94	下から9行目	低減値 β_L (図3.2.13)	低減値 α_L (図3.2.13の β_L と等しいとする)																																																																																																										
1-14	95	参考文献 4.3.15)	pp.115~2121, 2012.12	pp.2115~2121, 2011.12																																																																																																										
1-15	95	参考文献 4.3.16)	pp.749~1758	pp.1749~1758																																																																																																										
1-16	106	参考文献 4.4.11)	Schnabel, P.B.	Schnabel, P.B.																																																																																																										
1-17	111	参考文献 4.5.6)	Schnabel, P.B.	Schnabel, P.B.																																																																																																										
1-18	154	表5.3.6	最下段、すべての地盤の限界値について、Wの標準値とSの最大値が逆 (単位:mm) <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">支持地盤</th> <th rowspan="2">構造種別 基礎形式</th> <th rowspan="2">CB 布</th> <th colspan="3">RC・RCW</th> </tr> <tr> <th>独立</th> <th>布</th> <th>べた</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">圧密層</td> <td>標準値</td> <td>10</td> <td>15</td> <td>20</td> <td>20~30</td> </tr> <tr> <td>最大値</td> <td>20</td> <td>30</td> <td>40</td> <td>40~60</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">風化花崗岩 (まさ土)</td> <td>標準値</td> <td>—</td> <td>10</td> <td>12</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>最大値</td> <td>—</td> <td>20</td> <td>24</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">砂層</td> <td>標準値</td> <td>5</td> <td>8</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>最大値</td> <td>10</td> <td>15</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">洪積粘性土</td> <td>標準値</td> <td>—</td> <td>7</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>最大値</td> <td>—</td> <td>15</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	支持地盤	構造種別 基礎形式	CB 布	RC・RCW			独立	布	べた	圧密層	標準値	10	15	20	20~30	最大値	20	30	40	40~60	風化花崗岩 (まさ土)	標準値	—	10	12	—	最大値	—	20	24	—	砂層	標準値	5	8	—	—	最大値	10	15	—	—	洪積粘性土	標準値	—	7	—	—	最大値	—	15	—	—	(単位:mm) <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">支持地盤</th> <th rowspan="2">構造種別 基礎形式</th> <th rowspan="2">CB 布</th> <th colspan="3">RC・RCW</th> </tr> <tr> <th>独立</th> <th>布</th> <th>べた</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">圧密層</td> <td>標準値</td> <td>10</td> <td>15</td> <td>20</td> <td>20~30</td> </tr> <tr> <td>最大値</td> <td>20</td> <td>30</td> <td>40</td> <td>40~60</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">風化花崗岩 (まさ土)</td> <td>標準値</td> <td>—</td> <td>10</td> <td>12</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>最大値</td> <td>—</td> <td>20</td> <td>24</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">砂層</td> <td>標準値</td> <td>5</td> <td>8</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>最大値</td> <td>10</td> <td>15</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">洪積粘性土</td> <td>標準値</td> <td>—</td> <td>7</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>最大値</td> <td>—</td> <td>15</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	支持地盤	構造種別 基礎形式	CB 布	RC・RCW			独立	布	べた	圧密層	標準値	10	15	20	20~30	最大値	20	30	40	40~60	風化花崗岩 (まさ土)	標準値	—	10	12	—	最大値	—	20	24	—	砂層	標準値	5	8	—	—	最大値	10	15	—	—	洪積粘性土	標準値	—	7	—	—	最大値	—	15	—	—
支持地盤	構造種別 基礎形式	CB 布	RC・RCW																																																																																																											
			独立	布	べた																																																																																																									
圧密層	標準値	10	15	20	20~30																																																																																																									
	最大値	20	30	40	40~60																																																																																																									
風化花崗岩 (まさ土)	標準値	—	10	12	—																																																																																																									
	最大値	—	20	24	—																																																																																																									
砂層	標準値	5	8	—	—																																																																																																									
	最大値	10	15	—	—																																																																																																									
洪積粘性土	標準値	—	7	—	—																																																																																																									
	最大値	—	15	—	—																																																																																																									
支持地盤	構造種別 基礎形式	CB 布	RC・RCW																																																																																																											
			独立	布	べた																																																																																																									
圧密層	標準値	10	15	20	20~30																																																																																																									
	最大値	20	30	40	40~60																																																																																																									
風化花崗岩 (まさ土)	標準値	—	10	12	—																																																																																																									
	最大値	—	20	24	—																																																																																																									
砂層	標準値	5	8	—	—																																																																																																									
	最大値	10	15	—	—																																																																																																									
洪積粘性土	標準値	—	7	—	—																																																																																																									
	最大値	—	15	—	—																																																																																																									
1-19	185	図6.1.3(c), (d)	摩擦ばね (2か所)	周面ばね (2か所)																																																																																																										
1-20	194	参考文献 6.1.9)	高野信一郎	高野真一郎																																																																																																										
1-21	198	3行目	Vesic'	Vesic' (cの上に「'」)																																																																																																										
1-22	201	25~26行目	75%超過係数は1.4	75%超過係数は1.2																																																																																																										
1-23	206	図6.2.7 タイトル	中掘り法	中掘り工法																																																																																																										
1-24	207	図6.2.8 タイトル	摩擦力度	杭周面抵抗力度																																																																																																										

建築基礎構造設計指針(2019年11月刊行) 正誤表

整理番号 8-1 : 2026年2月25日更新 第6刷にて修正予定
 整理番号 7-1から 7-2まで: 2025年5月 1日更新 第5刷にて修正
 整理番号 6-1から 6-2まで: 2024年7月10日更新 第5刷にて修正
 整理番号 5-1 : 2023年8月 7日更新 第4刷にて修正
 整理番号 4-1から 4-4まで: 2021年9月 6日更新 第3刷にて修正
 整理番号 3-1 : 2021年2月24日更新 第3刷にて修正
 整理番号 2-1から 2-8まで: 2021年2月 5日更新 第3刷にて修正
 整理番号 1-1から 1-48まで: 2020年4月 8日更新 第2刷にて修正

整理番号	頁	訂正箇所	誤	正
1-25	213	図6.2.16 凡例	基礎指針	旧指針(2001)
1-26	221	参考文献 6.2.46)	cray	clay
1-27	221	参考文献 6.2.57)	建築基礎設計のための～	建築基礎構造設計のための～
1-28	221	参考文献 6.2.63)	杭土圧構造物	抗土圧構造物
1-29	227	9行目	杭周面摩擦ばね	杭周面抵抗ばね
1-30	233	参考文献 6.3.27)	若命喜雄	若命善雄
1-31	247	図6.5.4	$\tau_t = \frac{2}{3}\tau_t$	$\tau_t = \frac{2}{3}\tau_p$
1-32	254	参考文献 6.5.7)	井上 波	井上 波彦
1-33	254	参考文献 6.5.8)	尾子健太郎	尾古健太郎
1-34	255	参考文献 6.5.16)	日本建築学会構造系構造系論文集	日本建築学会構造系論文集
1-35	267	図6.6.9	杭周面摩擦ばね (2か所) 杭先端抵抗ばね (2か所)	周面抵抗ばね (2か所) 杭先端ばね (2か所)
1-36	267	8行目	杭の極限周面摩擦力度	杭の極限周面抵抗力度
1-37	267	9～10行目	杭周面摩擦ばね	周面抵抗ばね
1-38	277	2行目	ベシック(Vesic)	ベ-シック(Vesic)' (cの上に「J」)
1-39	295	図7.2.3 凡例	— · · — 摩擦杭(強度一定の粘性土) — — — 摩擦杭(強度が深度で線形に増加する粘性土)	— — — 摩擦杭(強度一定の粘性土) — · · — 摩擦杭(強度が深度で線形に増加する粘性土)
1-40	299	図7.3.2 (b) (c)	Depth	深さ
1-41	302	式7.3.13	$K_b = \frac{E_b d_{eq}}{1 + \nu_s^2} I_h$ (7.3.13)	$K_b = \frac{E_b d_{eq}}{1 - \nu_s^2} I_h$ (7.3.13)
1-42	303	1行目	K_{rs} (kN/m ²)	K_{rs}
1-43	312	4行目	事例 ^{7.4.17)}	事例 ^{7.4.14)}
1-44	338	18行目	地下外壁の自重による慣性力	立上り壁の自重による慣性力
1-45	441	参考文献 付3.2)	泉 浩蔵	有泉 浩蔵
1-46	441	参考文献 付3.10)	稲村敏男	稲村利男
1-47	441	参考文献 付3.11)	稲村敏男	稲村利男
1-48	453	例表2.2 (d)～(f)列	例表2.2【誤】と【正】.xlsx を参照ください.	